KGP
CSR REPORT
2022
-2023

今日も“想い”で世界を彩る。

株式会社北四国グラビア印刷

本社：〒768-0052 香川県観音寺市粟井町755番地　TEL：0875-27-9280　FAX：0875-27-9380
東京営業所：〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-9-13 Biz-ark浅草橋駅前5階　TEL：03-6682-3005　FAX：03-6682-3006
ホームページ https://www.kitashikoku-g.co.jp/

（ 株式会社 北四国グラビア印刷 CSR報告書 ）

CONTENTS KGP CSR REPORT

03 トップメッセージ
05 経営理念の体系
06 創業の精神・社訓・行動基準
07 コーポレートメッセージ
コミュニケーショングラフィック
08 グラビアースHAPPYスパイラル
09 情報セキュリティ方針
食品安全方針
10 環境方針
11 果たすべき責任
12 社会への責任
17 お客さま・お取引先さまへの責任
21 従業員への責任
23 会社概要・業績推移
24 わが社のあゆみ

TOP MESSAGE

社会・地域・業界の進歩発展をベースにして
お客さま・お取引先さまのために
会社の成長のために
従業員の幸福（しあわせ）のために
これからもグラビアーズHAPPYスパイラルをグルグル回し続けます。

代表取締役社長　奥田 拓己

「プラスチック包材-Readyな社会」をめざすため

皆さんが今朝お目覚めになって、身づくろいや食事をされる際、たくさんのプラスチック包材を利用されたはずです。このように私たちの仕事は生活を営む上で欠かせない衣食住に深く浸透しています。しかし、この軽くて薄い、そしてさまざまな機能性や美粧性を持ちながらも安価であるプラスチック包材も、直面している問題を考えると、これからはその利便性を享受するだけでなく、作る側は作る責任を、使う側は使う責任を負わなければなりません。これは環境、社会、経済などが複雑に絡んだ人類や地球全体の問題です。

2020年以降、新型コロナウイルスの影響は甚大でしたが、一方で世界中の人がこれからの環境や社会、そして経済の在り方を考え直すいい機会にもなりました。世界で多くの工場が稼働を停止した際の青い空の映像は忘れることができません。

18世紀後半の水力や蒸気機関による工場の機械化が進んだ第一次産業革命、19世紀後半の分業に基づく電力を用いた大量生産化が進んだ第二次産業革命、1970年代初頭の電子工学や情報処理を用いた一層のオートメーション化が進んだ第三次産業革命から、現在はビッグデータ、IoT、AI、ロボット等をコアとする第四次産業革命が進んでいます。これらを有効に活用することによって、多くの人が危険や単純労働から解放され、より生産性や創造性の高い仕事に従事することができるようになります。しかしながらその進んだ産業と「人」「環境」「社会システム」「ガバナンス」との在り方ついて、相互作用に留意しながら進める必要があると考えます。

プラスチック包材を正しく作り、正しく使い、正しく処理・再利用する

これらの考え方を当プラスチック包材業界に当てはめて考えてみましょう。

プラスチック包材をはじめとする産業の発展は社会に多大な便益をもたらす反面、環境などへの負荷が大きいため、今後はさらなる厳格さ、適切な開発・利用、社会実装が求められます。これらを実現するためには、関係するステークホルダーが留意すべき考え方を定める必要があります。そこで私たちは「プラスチック包材-Readyな社会」をめざすために、自社の経営陣、一人ひとりのグラビアーズ、そして各ステークホルダーの皆さんとともに、プラスチック包材への学び・リテラシーを高める機会を増やしてゆきます。プラスチック包材を正しく作り、正しく使い、正しく処理・再利用するための教養を身につけるために、環境や社会、経済、そして専門知識についての学び直しの機会を増やします。

私たちの活動は、ハチドリの一滴のように小さなものですが、持続可能な社会の一助となるべく、正しい経営を続けてまいります。

01
軟包装パッケージが大きな機会を創出できる！

2030年までに持続可能な開発目標の達成、2050年までに温室効果ガスの排出をゼロにするためには、第一次産業・第二次産業の生産者から消費者までの経済活動や生活様式の変更、さらにエネルギーの転換が求められます。そのために高度な技術革新の進展が必要です。

当社として、こうした目指すべき目標を達成するために生まれる新技術・新市場を、自らの成長・革新の機会と捉え、貢献・勝機につなげてゆかなければなりません。当社・当業界はその大きな可能性を持っています。

02
軟包装パッケージによってリスクを最小化できる！

今後、すべての企業は気候変動対策や人権尊重のための方向性をより明確にしなければなりません。自らが生み出す負の環境・社会的インパクトを最小化する活動・経営は、自らに対するリスクも最小化する大きなヒントとなり得ます。

多くの産業と関係をもつ私たちの業界は、社会・地球全体のリスクを最小化できる可能性を秘めています。コンプライアンス遵守はもちろん、必要な情報を開示し、自らを律する規範を定め共有することは、社会を守るためのみならず企業そのものを守るための盾にもなります。

03
軟包装パッケージは経済活動の土台を形成できる！

私たちの経済活動を俯瞰的にみると、まず土台に地球環境があり、その上に社会が形成されています。そしてその社会の安定を前提として初めて企業活動が成立するという構造になっています。よって環境や社会が破壊されたら全ての産業が立ち行かなくなります。まさにこの度のコロナ禍はそれを象徴しています。

現在当業界は、人類生存の根幹をなす衣・食・住に関連する産業に必要とされています。私たちが主体的に環境・社会問題に取り組めば、広く経済活動の土台を守ることにもなります。これからの企業は、利益だけを優先し環境や社会に対して悪をなすことは許されません。企業の本分である「社会の役に立ちながら利益を上げる」ことを実現しなければなりません。

01 経営理念の体系 System of Our Mission

02 創業の精神 The spirit of founder

人生在勤

まじめに生きること、全力で物事にあたることが仕事、家庭、社会における幸福につながります。

03 社訓 Our Value

全グラビアーズの物心両面の幸福を追求すると同時に、
社会・地域・業界の進歩発展に貢献する。

1970年、当社は資金も信用も実績もない小さな町工場からはじまりました。頼るものはなけなしの機械と技術、そして共に働く社長と専務を含めたたった4名の仲間だけでした。会社を存続させるため、いただいた仕事に感謝の念をいっぱいに込めて働いていました。
その後、1972年と1992年の工場移転をしながらも、脈々と創業の精神である「人生在勤」の教えは受け継がれました。そして2017年にこの新しい社訓が制定されました。働く目的を自分自身や一緒に働く仲間、そして自分が大切にする人たちの物心両面の幸福を追求することとし、その上で仕事を通じて社会・地域・業界の進歩発展に貢献することと定めました。

04 行動基準 Our Standard

一、品質に対してとことん責任を持とう。
一、良質で価値ある商品・優れた技術・親身なサービスで社会に貢献しよう。
一、何事にも進んで協力し、相互信頼から役立ちの場を創造しよう。
一、良いコミュニケーションと協調性で、企業革新に挑戦しよう。

●従業員全員で手と手を携え、お客さまの求めるものに対する絶え間ない努力をしよう。
●社会的視野に立ち、人間性を尊重し、よりよい人間関係を社内外に広くつくろう。
●ひとつの行動に責任を持ち、日常の些細なことにもまじめに取り組もう。
●柔軟な組織の中で個人一人ひとりの尊重とチームワークを最重要視し、自ら能動的に変化しよう。

05 コーポレートメッセージ Corporate Message

今日も“想い”で世界を彩る。

北四国グラビア印刷のあらゆる考え方をよりわかりやすく伝え、
私たちが大切にするものや活動、社会における役割を共有するための言葉です。
以下が私たちの基本的な考え方です。

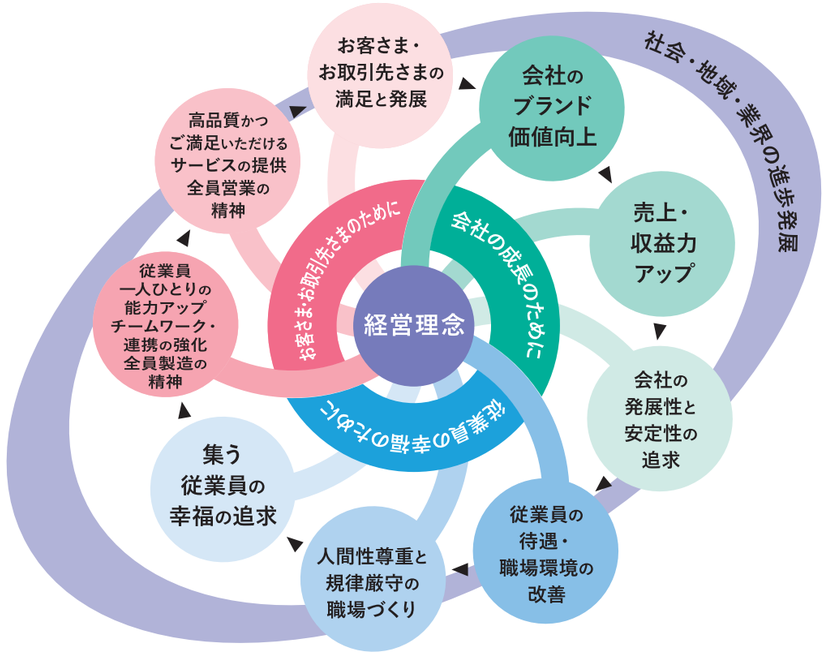
私たちは、お客さまと商品の魅力を最大限に引き出し、
新たな価値と感動を想造する、グラビア印刷のプロフェッショナルです。
私たちは、こだわりと愛情を注いだ商品をつくり、笑顔をもっと増やしたいと願う人に、
全力で目を配り、気を配り、心を配り、磨き続ける技術と品質によって、
確かな安心と、一歩先のサービスを提供します。
そして、ともに想いをカタチにする、真摯で頼もしいパートナーのように接します。
最強のチームワークが織りなす、自社一貫体制とおもてなしケーション、
それが私たちの誇りです。

06 コミュニケーショングラフィック Communication graphics

名称：彩リボン（イロドリボン）

コーポレートメッセージと同時に掲げた、線と線の結び目を3つの輪で表したコミュニケーショングラフィック。
これは、コーポレートメッセージを伝えていくためのビジュアルです。3つの輪は、お客さまの想い、北四国グラビア印刷の想い、生活者の方々の想いを表現しています。私たち北四国グラビア印刷が、世の中の想いをつなぐ接点であり続けたいという姿勢を表しています。

07 グラビアーズHAPPYスパイラル Gravures Happy Spiral



「お客さま第一主義」、「従業員第一主義」など、企業によって大切にしていることは様々です。
当社でも、どちらを重視していくのか、という議論が真剣に交わされていました。
しかし、どちらも大切なことだからこそ、その議論の結論はなかなか出ませんでした。
そんなときに出会ったとある企業の考え方に触発され生まれたのが、
このグラビアーズHAPPYスパイラルです。
どれが一番、どれが二番・・・ではなく、経営理念を軸として
「お客さま・お取引先さまの満足」「会社の成長」「従業員の幸福」
そして「社会・地域・業界の進歩発展」は全て【つながっている】のだ、という考え方です。
このスパイラルが時計回りにつながり、回り、そしてどんどんスパイラルアップしていく・・・
それこそが、私たちの【経営理念の実現】のひとつの形なのです。

＊グラビアーズ・・・当社従業員の愛称です。

08 情報セキュリティ方針 Information Security Policy

株式会社北四国グラビア印刷は、軟包装資材（パッケージ）の企画・デザイン・製造および販売を行う企業として、業務上取り扱う情報の機密性、完全性、可用性の必要性を認識し、それらを保護することの重要性を当社の経営活動に反映させます。このため、当社は各種法令や契約事項、その他の規範及び国際基準のガイドラインを遵守しつつ、適切かつ安全に情報資産を取り扱います。これにより、当社は経営戦略に沿った情報セキュリティを実現すると同時に、当社の情報セキュリティに対するお客さま及びその他関係者の皆さまの要望と信頼に応えます。

1. 情報セキュリティは、情報の機密性、完全性および可用性を維持することと定義します。
2. 当社は、軟包装資材製造業としての社会的責任を果たすとともにお客さまの信頼にこたえるために、保有する情報を適切に管理するための仕組みを確立し、維持します。
3. 当社は、情報セキュリティ対策に関する活動に、役員を含む全従業員が参画します。
4. 当社は、役員を含む全従業員に対して、セキュリティ意識の向上を図るための教育訓練を定期的に実施します。
5. 当社は、お客さまとの契約、法的または規制要求事項の重要性を理解し、これを遵守します。
6. 当社の情報資産の利用・運用に関わる全従業員は、本方針の趣旨を理解し情報セキュリティ関連規則を遵守します。
7. 当社は、情報に対する脅威の変化に対して、仕組みを継続的に改善します。

09 食品安全方針 Food Safety Policy

1. 私たちは、お客さまへ安全・安心な軟包装材をお届けし、社会に貢献いたします。
2. 私たちは、食品安全方針および食品に関連する法令、条例、規制要求事項、顧客要求事項を遵守し、健全な企業行動を実施します。
3. 私たちは、常にお客さまの声を真摯に受け止め、商品に活かします。
4. 私たちは、全従業員が製品の安全性を確認できる状態にするため、食品安全に関する知識の向上に努め、安全な資源が使用できることを確実にします。
5. 私たちは、全従業員に食品安全方針を周知・徹底します。また、各部門で食品安全目標を設定し、実施し、維持し、定期的に進捗をフォローします。

当社は、グラビア印刷業界のさきがけとして、先進的な食品安全マネジメントシステムを構築します。
そのうえで、法令・規制要求事項およびお客さまと合意した規制要求事項を遵守し、安全で安心な製品をお届けします。

10 環境方針 Environmental Policy

【 基本理念 】
KGP Eco Project

～育ててもらった山や川への恩返し～

北四国グラビア印刷は、地球環境の保全が人類共通の最重要課題であると考え、事業活動を通じて、「地球環境や地域と調和した持続可能で豊かな社会」を未来に引き継いでいきます。

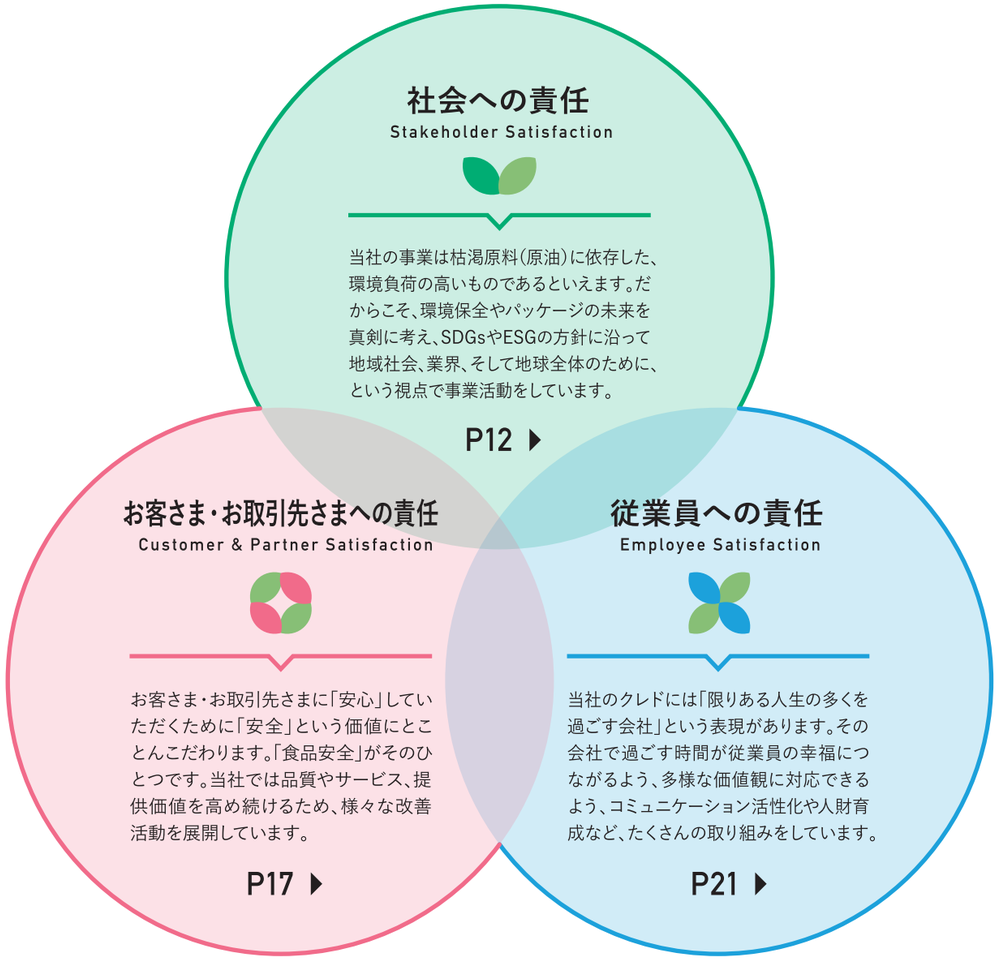
基本方針

1. 事業活動を通じて環境に及ぼす影響を的確に評価し、環境負荷低減のために3R活動を軸に継続的改善を図ります。
   1. 不良発生による再生産および不良品の廃棄が資源・エネルギーの無駄につながることから、改善の実（クレーム）削減および歩留り率向上を環境目標として掲げます。
   2. 廃棄物の分別を徹底し、法に順じて適正に管理します。

   ※3R…Reduce（リデュース）：ごみを減らす、Reuse（リユース）：再利用する、Recycle（リサイクル）：再資源化する
2. 環境関連の法規制・その他要求事項を順守し、環境保全に努めます。
3. 環境に配慮された資・機材の優先購入に努めます。（日印産連グリーン基準に準ずる）
4. 「部門別採算制度（時間当り採算）」の推進により、環境負荷の低減を実現します。
   1. 購入する「もの」「量」「タイミング」を厳格に管理し、無駄を省きます。
   2. 「時間当り採算」を意識することで効率を向上させます。
5. 全グラビアーズに対する教育・啓蒙活動により、環境方針の理解および環境保全活動の定着・向上を目指します。
6. 環境方針をホームページ上で開示し、利害関係者のみならず社会全体に発信します。

北四国グラビア印刷が果たすべき責任

企業が存続し続けるためには「利益」が必要です。
しかし利益の追求だけではなく、その活動の根本には「事業活動を通じて倫理的観点から社会に貢献していく」という姿勢がなければならないと私たちは考えています。
私たちは、私たちの事業活動が社会に与える影響に責任を持ち、
私たちに関わる全ての人や組織の物心両面の幸福（しあわせ）を実現させます。



社会への責任

Stakeholder Satisfaction

KGP Eco Project

私たちは、環境を経営の重要課題のひとつと位置付け、様々な環境への取り組みを行っています。「自分たちが育った環境を子供たちにも残したい」そんな想いで、環境を守るエコ活動を行っています。

ノンソルベントラミネーター

プラスチックフィルムのラミネート方式で一般的なのはドライラミネートです。この方式では接着剤を希釈するために有機溶剤を使用します。それに対してこの「ノンソルベントラミネート」はその名のとおり「ノン（無）」「ソルベント（溶剤）」で、溶剤を使用しないラミネート方式です。溶剤を使用しないことで作業環境が良くなることはもちろん、揮発性有機化合物（VOC）の大気への放出もないため、周辺や地球環境の保全に効果があります。

ハイソリッド型接着剤

当社では上記ノンソルベントラミネーター機1台の他に、ドライラミネーター機を2台保有しています。こちらは有機溶剤を使用する方式なのですが「できるだけ有機溶剤の使用量を削減できないか」と考え、接着剤メーカーさまの協力を得ながら「より少ない有機溶剤でも塗工できる接着剤の選定」と「その塗工条件の検証・設定」を行いました。結果として、ラミネート工程での有機溶剤使用量を約35～50%削減、製品への残留溶剤も50%削減（NY15μm//LLDPE50μmの場合）させました。

VOC処理設備

VOCは揮発性有機化合物（Volatile Organic Compounds）の略称で、大気中の光化学反応により光化学スモッグを引き起こす原因物質の一つとされており、大気汚染防止法（2004年5月改正、2006年4月1日施行、既設の設備は2010年3月31日までが猶予期間）により排出規制が実施されました。当社では法令遵守とCSRの観点からVOC処理設備を導入、単にVOCを除去するだけではなく、その際に発生した排熱を回収し乾燥工程に再利用することで、熱源に使用している燃料の削減をも実現しました。これによる年間CO_2削減効果は、樹齢40年のスギの木13,000本が1年間に吸収するCO_2の量と同等です。

空調設備の負荷低減

作業環境を良くするため、品質を安定させるため、といった観点から、工場内の温度は空調設備で管理されています。この空調設備のエネルギー消費量はとても大きいため、当社ではエネルギー消費を低減させるために「工場屋根の断熱塗装」および「空調設備から排出されるドレン（排水）を回収し、スプリンクラーで屋根への散布」を実施しています。従来は捨てるだけだったドレンの水温は15℃と低く、これを再利用することで屋根の温度を16℃下げることができました。

社会への責任

3R+T活動によるゴミゼロ化への挑戦

「環境保全を前提とした循環型社会の形成」が求められているなか、私たちは、廃棄物のリサイクルや、VOC処理設備によるエネルギーの再利用を行っています。3R+T活動は、私たち一人ひとりが環境に対し出来ることを考え（Think）行動する活動です。製造業だからこそ、これからも真摯に社会・環境と向き合い、持続可能な社会への貢献を続けてまいります。

グリーンプリンティング認定制度

当社は、環境に配慮した印刷工場で製造を行っています。これは、設備面のみではなく、ゴミ箱やインキの蓋を常に閉めることで有機溶剤の揮発を防止するなど、ソフト面でもいろいろな取り組みをしています。また、製造時に発生する廃棄物の量も極限まで削減できるように取り組んでいます。このような取り組みは、一般社団法人 日本印刷産業連合会のグリーンプリンティング認定制度により、認定されています。

GP ECO AWARDS

KGP NEWS

2021 GPマーク普及大賞を受賞しました

2021年9月に「2021 GPマーク※普及大賞」にて、グラビア・シール・スクリーン印刷部門の大賞を受賞させていただきました。当社はかねてより、軟包装パッケージを通して持続可能な社会の実現に微力ながらも取り組んでおります。本賞の受賞に驕ることなく、より一層の努力をもって環境・社会問題の解決に貢献してまいります。引き続き、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

※GPマーク・・・資材から工程までの総合的環境配慮マーク

お客さまの大賞受賞にも貢献

GPマークの提案を積極的に採用いただいたお客様も環境準大賞を受賞されました。この提案は環境配慮をはじめとする商品づくりへのお客様の想いをヒアリングするきっかけになりました。お客様と一緒にパッケージづくりを通して環境配慮に少しでも寄与できるこの活動をこれからも広げていきます。

環境対応インキ

インキの一部に植物由来の原料を使用したバイオマスインキを使用しています。バイオマスインキは、CO_2の削減と持続可能な原料調達による自然環境の保全を実現します。
当社では、2017年から顧客企業の要望に応じて限定的に使用してきましたが、2021年から基本インキをバイオマスインキに切り替えています。

環境包材

顧客企業から環境に配慮した包材の問い合わせを多く頂いています。当社としても、持続可能な社会の実現のため、積極的に製造や物性評価を行っています。具体的には、薄肉化・植物由来・生分解・紙などです。これらを実現することで、生活になくてはならないパッケージのCO_2削減と持続可能な原料調達を目指しています。

デジタル印刷機

昨今の急速に進む小ロット化、多品種化、短納期化に対応するために新しいソリューションが求められています。それらに対応するために、私たちはデジタル印刷機を導入しています。グラビア印刷では困難なオンデマンド印刷を実現し、必要なものを、必要な時に、必要な量だけ製造することで、過剰在庫・廃棄物の削減につなげています。また使用するインキはVOCを使用しない環境配慮設計のため、環境負荷低減、クリーンな環境を実現しています。

校正ロール

「複数台の欠点検出装置の検出能力にバラツキが発生する」「バラツキを確認する手段がない」といった問題は、グラビア印刷業界全体で長年の課題でした。そこで私たちは、欠点の検出能力を測定し校正するためのツールが必要と考え、校正ロールの開発を行いました。適切に運用することで欠点検出装置の性能を保ち、品質の適正化、異常の早期発見によりロスを最小限にすることで廃棄物削減、環境負荷低減につなげています。

社会への責任

地域社会への貢献

私たちの取り組みを地域活性化、働きがいの創出などに役立ててもらうための一環として、香川大学にて公開講座を行いました。「人生在勤」を核とした理念経営による人財育成、5S活動、レクリエーション、様々な学びの仕組みなどを独自の取り組みとして紹介。製造現場の第一線で働く若手社員に講師を担当してもらうことで、より説得力をもって伝えられたと思います。また、地域社会への貢献の一つとして、地元小学校への寄付や社会科見学の受け入れ、高校での出張授業などを実施しています。当社は学校への支援を通じて、社会全体の財産であるこどもの未来を明るく照らす活動を今後も継続していきます。

SDGsの取り組み

競争力を得る活動で社会的価値を創り出す

SDGsは2015年9月に「国連持続可能な開発サミット」で193の国連加盟国の合意のもと採択されました。改めてSDGsの目標と当社の関わりをまとめると、「技術革新」「教育」「働きがい」「環境配慮」など以前からの取り組みがリンクしています。これからはさらに本業で社会的価値を創り出す、またそれにより競争力を得る活動が必要です。また、私たちは地方である香川県を拠点に取り組むことに意味があります。

開発部長　森本 未沙さん（SDGsカードゲーム 公認ファシリテーター）

当社では、SDGsの目標達成に向けて仲間を増やす活動をしています。2030SDGsカードゲームを通して、SDGsへの理解や可能性を体感してもらっています。これまでに160人を超える方々と一緒にカードゲームを通じてSDGsについて考える機会がありました。参加して頂いた方はみなさん、利己的ではなく全体をよくするために、今後ご自身が何をするのかを考え、実践してくださっています。

KGP NEWS

CATCHCOPY CONTEST

パッケージについて考える機会を創出

キャッチコピーコンテスト「平賀源内甲子園」に協賛

「平賀源内甲子園」は、香川県のクリエイター集団、瀬戸内工芸ズが主催している学生対象のキャッチコピーコンテストです。様々なテーマを元にした「お題」に対して、香川県内の学生が知恵を絞ってキャッチコピーを作成するという、実にクリエイティブな取り組みです。そこに当社がお題を提供する企業として協賛させていただきました。お題は**「食品パッケージはただのゴミじゃない！存在意義を知らしめる目から鱗のキャッチコピー。」**食品パッケージに使用されるプラスチックは、近年の脱プラの潮流から厳しい目にさらされています。しかし担わされた役割は重要で、簡単に代替できるものではありません。そこで、その存在意義について考えてもらおうという主旨でお題を設定しました。結果、数多くのキャッチコピーが集まり、そこから企業賞を選ぶに至りました。この取り組みに参加したことで、これまで食品パッケージについてあまり考えることのなかった人たちに、考えるきっかけを与えられたと思います。いろいろな視点から「食品パッケージ」について考えてもらうことで、業界発展の一助になればと思います。

県内学生に聞く「パッケージの役割」とは？

同じテーマで、社内版「平賀源内甲子園」開催！

学生に募集したものと同じお題で、社内でも同様のキャッチコピーコンテストを行いました。毎日のように「食品パッケージ」に関わっていても、深く考えたことがあるかと言われたら…ということで社員にもしっかり考えてもらう機会を設けた次第です。やはり接点の違い、人生経験の違いからか、学生とは一味違うコピーが。こちらもまた、自分たちの仕事について改めて考える良いきっかけになりました。

社員が考えたコピーがこちらから見られます。珠玉の作品群、ぜひご覧ください。▸▸▸

グランプリ

平賀源内甲子園【社内版】グランプリ

企画設計チーム　島田 遥さん「世界が認めた 食のボディガード」

大学でコピーライティングの授業を受けたときのことを懐かしく思い出しながら、今回のコピーを考えました。短いフレーズで収め、意外性のある単語を用いるよう意識しました。ただ自信は1ミリも無かったために、グランプリをとれたことに今でも驚いています。われわれ従業員が、日々一生懸命つくっているパッケージの存在意義を今一度立ち止まって深く考える機会を得られましたし、全社員のコピーを拝見して、みなさんそれぞれの感性・視点がコピーからみられてとても面白い催しであったと感じております！これからもパッケージをつくっていることに誇りを持って、日々努力してまいります。ありがとうございました！

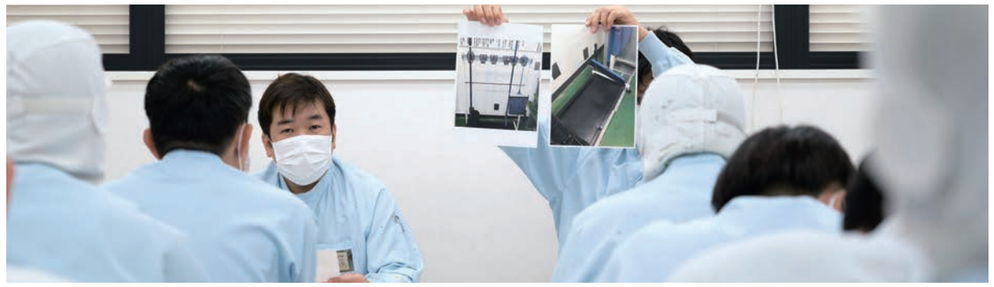
お客さま・お取引先さまへの責任

徹底した衛生管理

私たちのパッケージはお客さまの商品の一部です。
消費者に安全安心な商品を届けるため、日々衛生管理に取り組んでいます。

ISO22000取得

当社では、食品や品質要求の高い製品を多く取り扱っています。そこで、2015年にISO22000を認証取得しました。私たちはフードチェーンの一部としてお客さまに、そして消費者に安全安心な製品をお届けできるように、仕組みを構築しています。また、FSSCではなく、ISOを高いレベルで運用することで、当社に合わせた食品安全の方法を構築しています。



「食品安全委員会」として、社内での意識浸透や改善活動を率先して行っています。

ISO22000の更新維持のために内部監査員を設け、定期的な監査を行っています。

更新審査は外部の方の厳しいチェックのもと実施されます。

F.S（フードセイフティー） NEWS

ISO22000を認証取得して以来、毎月F.S NEWSを発刊しています。これは、当社の食品安全に関する取り組みを、従業員に伝えるためのツールとして活用しています。この中では、手洗いの汚れが残りやすい箇所の検証や防虫管理、監査の仕組みと結果などあらゆるテーマを取り上げています。この内容は、お客さまや仕入れ先さまにもお渡しし、アドバイスをもらいながら食品安全チームの活動に反映させています。（2015年4月からスタートし、毎月20日発刊。最新版87号（2022年6月号））

異物混入防止の徹底

工場内には持ち込み物を制限し、最低限のものしか持ち込まないように管理しています。もちろんこれは従業員のみではなく、来訪者さまも対象となります。また、工場入り口では、履き替えを徹底し、工場内に異物を持ち込まないようにしています。その他にも、防虫管理の徹底や、血痕の付着対策などさまざまな取り組みを実施しています。

靴の裏などに付着した細菌やウイルス、ゴミの侵入を入室前の「履き替え」で防いでいます。

防虫に精通した業者さまに、毎月改善箇所や方法のアドバイスをいただいています。

ケガ時の絆創膏には青いタイプのものを使用。混入の際に見つけやすく、金属探知機にも反応します。

回収訓練

当社では、1年に1回、不良が発生したことを想定し、遡ってどこまで不良が発生しているか、それが今どのような状態にあるのかを確認するという訓練を実施しています。これは異常発生時に「正確に早く、波及範囲を特定できる仕組み」になっているかの検証をするためです。また、実際に自分たちでトレースすることで、回収訓練を通して「帳票記入」や「キープサンプル」の重要性を理解してもらうことも目的としています。

品質保証チーム　井手 将允さん

正直なところ、本人の意思があれば禁止物の持ち込みや、正規の手順をふまずの入室も可能です。でもなぜ当社にそれをする人がいないのか、それは従業員みんなが持ち込んではいけないこと、管理が必要なことなどの“取り組みの意味と目的”を大切にしているからです。ローマは一日にして成らず、過去から今日までみんなが誇りにしている思いです。もちろんこれからも続けていきます。

お客さま・お取引先さまへの責任

QCサークル活動

改善活動ではなく、主体性を育む「人財育成」

2007年から継続し、会社の状況に応じて、変化とスパイラルアップをさせながら、小集団活動を行っています。全従業員が参画し、少人数で同じテーマに取り組むことで、改善の成果を得ることはもちろんですが、アプローチ方法やその中の会話など人財育成やエンゲージメントの向上の場にもなっています。またQCサークルのリーダーは、チーム全員で目標達成に向けて取り組むマネジメント力も身につけています。

QCサークル発表会

活動の成果を社内だけではなく、お客さま・協力会社さま・仕入先さまにも見ていただくことでパートナーシップを育み、お互いになくてはならない存在であり続けるための活動となっています。また、発表会の運営においても、その年の新入社員が行う事で、同期の絆と人財育成の場となっています。

開発部長　森本 未沙さん（QC委員長）

QCの進捗責任者として、4チームの会議に参加させて頂いています。それぞれのチームで「現場の声」をそれぞれが出し合い、PDCAを回しながら取り組んでいます。その効果（成果や成長、関係性など）を最大限出せるように、各チームリーダーと相談しながらサポートをさせて頂いています。それぞれが自分の役割を果たしながら成長できるのがQCサークル活動だと思います。

BCP対策

大規模自然災害や感染症など、「もしも」の時に従業員の人命確保と地域社会への影響防止を最優先とし、被害の拡大防止と二次災害の発生防止に努めるようにしています。
従業員の安否確認では「安否コール」という携帯端末アプリを使用し、会社敷地内には備蓄庫を設置しました。インフラの停止時でも活躍する発電機や食料などを始めとする備蓄品をまとめて管理できるようにし、委員会では、事業継続計画などを継続して進めています。

5S活動

「守ることを決めて、決めたことを守る」風土醸成こそが真の目的

当社の5S活動はきれいな職場にしていくための手段であり、目的ではありません。5S活動を徹底する事で、職場環境が変わり、美しい環境に変わっていくプロセスの中で人が育ち「守ることを決めて、決めたことを守る」という風土醸成こそが真の目的です。企業存続に不可欠な「人づくり」の基礎を作り最大の力を発揮させる事で品質、安全、顧客サービスを向上させていきます。

主な5S活動

各エリアの改善箇所を掲示し、良い取り組みは横展開につなげています。また定物定位置を心がけ、探す手間や紛失のリスクを低減しています。

生産管理チーム　小林 大介さん（5S委員長）

当社の5S活動は「守ることを決めて、決めたことを守る」のテーマのもと、人財育成の一環として日々活動に取り組んでいます。2022年は、「全社5Sの精神」「外部から意見を頂く」という多くの目線での5S活動を目標にして活動しています。限られた人の限られた目線からだけでなく多くの視点から5S活動を行う事で、様々なアイデアや改善が生まれ、改善レベルのUP、環境の維持が浸透すると考えています。

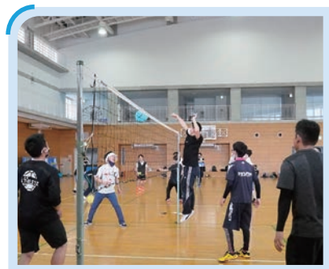
東京営業所からの価値発信

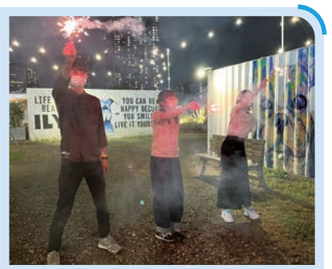
より多く、きめ細やかにお客さまのニーズにお応えするために東京営業所を構えたのが2007年。当初は人員も設備も最低限でしたが、サービス向上を目指す中で規模を拡大してきました。現在は色校正立会のためのプリンターや、遠隔で刷り上がりの色を確認できる「リモート色校正システム」も導入し、ただの営業所ではない“提供価値を向上するための拠点”としての機能を高めています。

従業員への責任

レクリエーション活動

レクリエーション活動はコミュニケーション活性化と人財育成の２つを主な目的としています。ここ数年のコロナ禍にあって開催機会は減りましたが、感染対策などを工夫して社員同士の交流の場を作っています。また委員会メンバーは若手社員で構成されており、事業申請から報告までの一連の流れを通して基本的な仕事の流れを覚える人財育成の場と考えております。





社員教育

何よりの財産である「人財」。人の良い点や課題を見出し、それを成長につなげていくことが企業の力、品質やサービスを高めていく一番の道だと考えています。当社ではいわゆる「教育研修」だけでなく、社内のあらゆる活動（5S活動、QCサークル活動、安全衛生、レクリエーション、人事制度etc…）の中に人財育成の視点を取り入れ、多角的に人財の育成・成長を支援しています。

発表の場が多く、
「自分の考えを人に伝える」
ということが
自然と身に付いています！

資格取得支援

資格取得で大切なことは、自分事と捉え主体的に参画することです。仕事では経験やスキル、技術はもちろん大切ですが、基礎知識はもっと大切です。会社推奨の資格に関する勉強をする事により、その分野での知識を深める事ができ、実践的な場での経験だけでは知りえない、新しい教養が身に付きます。時間を作り達成した喜びをモチベーションとし、最高のパフォーマンスにつなげています。

多様な働き方への支援

「働き方の多様性」と「活発な社内コミュニケーション」の両立

環境の変化やライフサイクルの都合で日々出社することが難しくなった従業員も在宅やテレワークで働けるよう、2020年に在宅ワーク規定を刷新しました。今はネット環境さえあればどこでも働くことができる時代ではありますが、当社が大切にしている従業員同士のコミュニケーションも今まで以上にとれるよう、ミーティングや情報共有が容易に行えるアプリやWEBを利用して「働き方の多様性」と「活発な社内コミュニケーション」の両立を目指しています。

人財開発チーム　近藤 育代さん

女性の社会進出を後押しする世の中で、まだまだ結婚・妊娠・出産を経験した女性が働き続けられる環境が伴っていないと感じることが多々あります。今ある産休・育休・時短等の制度を最大限に活用し、子育てしながら長く働ける環境づくりの一環として、テレワークの実現を目指しています。新しい働き方にも対応できる仕組みを作り、長く働ける人財を確保・育成することで、会社の価値を高めていきます。

COMPANY PROFILE

会社概要

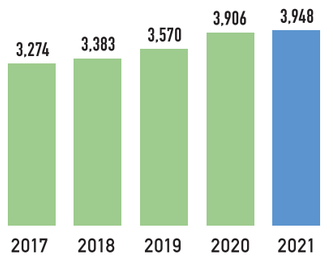
設　　立	1976年1月（創業1970年）
資 本 金	3億1,000万円
代 表 者	代表取締役社長 奥田拓己
本社工場	〒768-0052 香川県観音寺市粟井町755番地 TEL：0875-27-9280　FAX：0875-27-9380
東京営業所	〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-9-13Biz-ark浅草橋駅前5階 TEL：03-6682-3005　FAX：03-6682-3006
従業員数	123名（内、パートタイム3名）
売 上 高	39.4億円（2021年12月期）
決 算 期	12月末
事業内容	グラビア印刷による軟包装材の製造、及び包装材の仕入並びに提供

本社

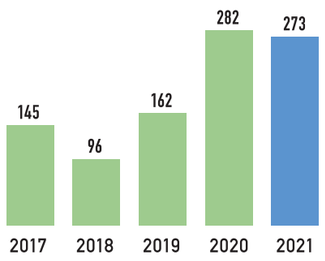
東京営業所

業績推移

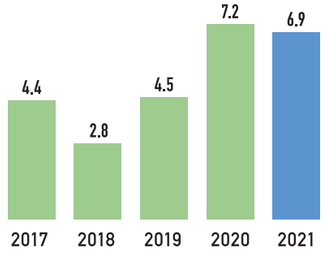
売上高（百万円）



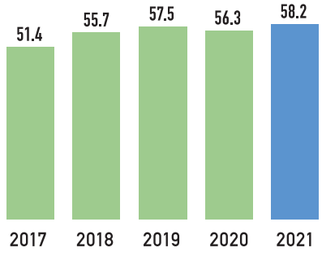
経常利益（百万円）



経常利益率（%）



自己資本比率（%）



わが社のあゆみ

西暦／年号	主なできごと
1970　昭和45	前会長奥田正幸が香川県観音寺市八幡町において北四国グラビア印刷創業、 ポリチューブ4色機導入（既設は600mm幅3色機のみ）
1972　昭和47	観音寺市本大町1731-1番地に新工場新築移転、スリット機“初”導入
1973　昭和48	1色1000mm幅印刷機導入
1975　昭和50	倉庫増築
1976　昭和51	株式会社北四国グラビア印刷を資本金1000万円にて設立
1980　昭和55	コピー機“初”導入、ドライラミネート機“初”導入
1983　昭和58	ファクシミリ機“初”導入、梱包機“初”導入
1984　昭和59	6色印刷機導入
1987　昭和62	5色印刷機導入
1992　平成4	観音寺市粟井町755番地へ本社並びに新工場新築移転、完全冷暖房、無窓工場にて防虫・衛生面の完備を図る、9色振分け印刷機（1号機、2号機）、ドライラミネーター機（1号機）増設
1994　平成6	6色広巾印刷機（6号機）、スリッター機（東伸製）増設
1996　平成8	広巾ドライラミネーター機（2号機）、スリッター機、検品機増設、北側倉庫新築
1997　平成9	第一次空調工事
1998　平成10	軟包装衛生協議会認定工場取得（202号）
1999　平成11	第二次空調工事、ガスクロマトグラフ一式、フィルムシート一式 圧縮梱包機5台、小型万能試験機一式、ヒートシールテスター一式導入
2000　平成12	自動梱包機、コーターリフト、10色振分け印刷機（3号機、4号機）更新、新人事制度スタート
2001　平成13	中期経営計画発表、企画部門新設、印刷機全機に欠点検出装置設置完了
2002　平成14	青島加藤信包装有限公司設立（合弁会社）
2003　平成15	ITシステム構築、ISO9001認証取得、自動ラック式倉庫設置、製版部門新設、自家発電システム設置
2004　平成16	メッキ・製版システム本格稼動、製袋部門新設、三方、センタープレス製袋機設置、第二倉庫完成
2005　平成17	原価システムスタート、ドライラミネーター機(2号機)に欠点検出装置設置
2006　平成18	専務取締役 奥田拓己が代表取締役に就任 空調・給排気設備改修、ノンソルベントラミネーター機新設、シリンダー研磨機導入
2007　平成19	5S活動推進委員会発足、東京営業所設置、香川大学との共同研究スタート 新スリット機導入、企画室改装、UVインクジェットプリンター導入
2008　平成20	「人生在勤ノート」全従業員へ配布、インモールド関連印刷開始、印刷機2台に反転装置設置、検品機設置
2009　平成21	組織変更、チーム制導入、改定新人事制度スタート、高速三方製袋機設置
2010　平成22	創業40周年、VOC設備設置、構成分析装置設置、加湿装置設置、青島加藤信包装有限公司合弁解消
2011　平成23	国内クレジット制度、排出削減事業が承認、盛和塾第19回世界大会にて稲盛経営者賞受賞
2012　平成24	本社第二工場竣工、空調設備全面改修、本社第一工場改修、新食堂設置、私たちの信条（credo）制定
2013　平成25	資本金3億1000万円に増資、おもてなし経営企業選選出、ラミネート機更新、マイクロスコープ導入
2014　平成26	対侵入者映像記録システム設置、盛和塾第22回世界大会にて敢闘賞受賞 コーポレートメッセージ・コミュニケーショングラフィック制定
2015　平成27	ISO22000認証取得、新基幹管理システム「ワンピース」導入 新振分け印刷機（1号機、2号機）設置、グリーンプリンティング工場に認定、消防設備第一期改修工事
2016　平成28	消防設備第二期改修工事、新人事制度・目標管理制度スタート、製版彫刻機（エクストリーム仕様）導入 部門別採算制度（日時決算）スタート
2017　平成29	デジタルインクジェット印刷機導入、事業継続計画（BCP）策定、攻めのIT企業経営中小企業百選選出、 東京営業所移設
2018　平成30	香川県中小企業BCP優良取組事業所認定制度認定、新潟外部倉庫運用開始、コレクトアイシス導入、 在宅勤務規定制定
2019　平成31・令和元	マーケティング アンド セールス戦略部新設、新ボイラー導入（重油式からLPG式へ転換）、 創業50周年記念事業として「工場見学研修」をスタート
2020　令和2	創業50周年、四国でいちばん大切にしたい会社大賞受賞、香川県中小企業BCP優良取組事業所認定（更新）、 地域未来牽引企業選定、リモート立会システム導入、製函機導入、ノンソル調液装置導入、 東京営業所移転
2021　令和3	創業50周年記念式典開催、開発部新設、CSRレポート初発行、2021GPマーク普及大賞受賞、防災機材倉庫 設置、情報セキュリティ方針制定、オンライン空間共有システム「Webex」導入